

## 献血者確保対策について

(平成 26 年度 日本赤十字社の取り組み)

平成 25 年度における献血者確保について

平成 25 年度は、医療機関における血液製剤の需要動向等をふまえ、献血申込者数 6,071,883 人（対前年比 97.7%）、献血者数 5,156,325 人（対前年比 98.2%）を受け入れた。

献血方法別で見ると、成分献血者数 1,490,207 人（対前年比 96.9%）、400mL 献血者数 3,267,110 人（対前年比 99.0%）、200mL 献血者数 399,008 人（対前年比 96.9%）となった。

一時的あるいは季節的な輸血用血液製剤の不足にも十分対応できるよう、需要に見合った血液の確保及び有効利用等（期限切れの抑制）を行い、血液を安定的に供給することができた。

\*献血推進 2014(平成 26 年(2014 年)度までの達成目標)

項目	目標	平成 23 年度実績	平成 24 年度実績	平成 25 年度実績
若年層の献血者数の増加	10 代(注)の献血率を 6.4%まで増加させる。	5.8%	6.2%	6.3%
	20 代の献血率を 8.4%まで増加させる。	7.5%	7.5%	7.2%
安定的な集団献血の確保	集団献血等に協力いただける企業・団体を 50,000 社まで増加させる。	47,137 社	49,232 社	50,712 社
複数回献血の増加	複数回献血者を年間 120 万人まで増加させる。	1,001,516 人	1,003,778 人	996,684 人

(注)10 代とは献血可能年齢である 16～19 歳のことを指す。

1. 平成 26 年度までの達成目標

(1) 若年層の献血者数の増加について

10 代では、平成 25 年(2013 年)度の献血率 6.3%(30.5 万人)を踏まえ、平成 26 年(2014 年)度は 6.4%まで増加させる。

20 代については、平成 25 年(2013 年)度の献血率 7.2%(94.3 万人)を踏まえ、平成 26 年(2014 年)度は 8.4%まで増加させる。

\*献血率算出における人口については、総務省の統計資料を準用

(2) 安定的な集団献血の確保について

安定的な集団献血の確保を図るために、平成 25(2013)年度 50,712 社を踏まえ、集団献血等に協力いただける企業・団体を減少させること

なく、平成 26 年(2014)度に 51,000 社まで増加させる。

(3) 複数回献血の増加について

複数回献血者については、平成 25(2013)年度 996,684 人を踏まえ平成 26 年(2014)度は年間 120 万人まで増加させる。

2. 上記 1. を達成するための平成 26 年度における重点的な取り組み

(1) 各年齢層に応じた広報

献血の意義や、献血血液の医療現場での使用状況について、国民が広く理解できるように進めることが、献血意識を高めることにつながるから、血液事業をより理解していただくため、パンフレット「愛のかたち献血(小・中学生用及び一般用)」の制作、若年層全体(10～20 代)を対象とした「I LOVE in Action プロジェクト」や「はたちの献血キャンペーン」、高校生・大学生を対象とした学生献血広報「TEAM GAKUKEN(ガクケン)」など、各年齢層に応じた広報を継続的に展開するとともに、広報誌(献血 Walker 等)を制作・配布することにより、受血者の顔が見える取り組みを推進する。

また、企業・団体が行う献血推進活動を社会貢献活動の一つとして広く一般社会に認知されるよう「献血サポーター」ロゴマークを配布し、企業・団体の献血推進活動の普及・拡大を図る。(参考:平成 25 年度新規配布実績 1,077 企業・団体)

(2) 安定供給につながる若年層(小・中学生及び高校生)への対策

「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」に「献血制度について適宜触れること」が盛り込まれ、また、平成 24 年から厚生労働省から文部科学省へ協力依頼通知(学校における献血に触れ合う機会について)が発出されたことから、平成 26 年度も、高校生はもとより将来の献血可能群である小・中学生等を対象とした献血セミナーを学校へ出向いて積極的に実施する。

更に、文部科学省や厚生労働省の協力を得て、学校や家庭において命の尊さや献血の大切さについて考える機会を創出するため、「赤十字」のちと献血俳句コンテスト」を引き続き実施する。

(3) 安心して献血ができる環境の整備

献血ルームについては、平成 22 年 9 月に策定された「献血ルーム施設整備ガイドライン」に基づき、献血者が安心して献血できる環境の整備を進めている。

(4) 献血者の安全対策等

採血時または採血後の副作用発生状況を把握していく。また、採血副作用の種類・発生頻度、献血後の注意事項等の献血に関する必要な情報について初回献血者を始めとした献血者へ周知を図り、採血後の休憩を十分とって頂く等の未然防止策を実施する。

(5) 複数回献血クラブ会員の普及拡大

複数回献血者の増加を図るために、複数回献血クラブ会員(希望者)を対象として、現行の献血カードに加え、新たなデザインの新規献血カードを提供している。(平成 23 年 10 月 3 日全国導入)

また、新たに複数回献血クラブに加入した会員に、年度内に再度献血をしていただくための取り組みの強化を図る。